

「引揚を語る、引揚を考える」連続シンポジウム in 沖縄

日時：2020年2月2日(日) 13時～17時半

会場：琉球大学文系講義室 114

I. 開催趣旨

第二次世界大戦終結後、国境線の変更と共に「引揚」が生じた。日本人の引揚に限らず、旧帝国圏の朝鮮人や台湾人等の引揚、それと同時に「残留」があった。引揚、残留は戦後社会の再編において重要な出来事であったが、十分な検討がなされないまま、忘却の彼方に追いやられてきた。

とりわけ、戦後沖縄では沖縄戦と米軍占領という圧倒的な出来事の前で、旧植民地からの引揚が語られることは少なかった。しかし、戦前から海外や植民地に多くの人々が移り住んでいた沖縄では、海外ウチナーンチュと供に、旧植民地からの引揚者の存在・役割は隠然たるものであった。それは、赤嶺守(編)『<沖縄籍民>の台湾引き揚げ証言・資料集』(2018)や、沖縄満洲会の『沖縄それぞれの満洲―語り尽くせぬ記憶』(2015)で明らかにされている。そこで、沖縄における戦後引揚を語る場を設け、沖縄の皆さんとともに<引揚と戦後沖縄社会の復興>について考えたい。

II. プログラム

(1)シンポジウム開催のご挨拶(13:00～13:05) 蘭 信三(上智大学)

(2)引揚を語る(13:05～14:35)

大城光代(台湾引揚・弁護士)

名城郁子(元沖縄満洲会代表・尚学院常務理事)

宮平美子(満洲引揚・元那覇高校教諭)

(3)引揚を考える(15:00～16:30)

中村春菜(琉球大学人文社会学部講師)

「戦前・戦時・戦後をつなぐ台湾引揚」

謝花直美(沖縄大学地域研究所特別研究員・沖縄タイムス記者)

「沖縄占領下の「金武湾」からみる移動、引揚、再移動」

原佑介(同志社大学グローバル地域文化学部嘱託講師)

「歴史のなかに消えた故郷：朝鮮植民者二世作家小林勝の心情と論理」

(4)総括討論「引揚を問う、引揚から問い直す」(16:45～17:30)

参加無料・登録不要

主催：上智大学・蘭科研班 共催：琉球大学人文社会学部中村研究室

連絡先；E-mail：harunan@ll.u-ryukyu.ac.jp Tel：098-895-8189

【参考文献】

- ・大城光代(2014)『世の光地の塩 沖縄女性初の法曹として 80 年の回顧』琉球プロジェクト(琉球新報社)。
- ・沖縄満洲会編(2015)『沖縄それぞれの満洲—語り尽くせぬ記憶 沖縄満洲会 15 周年記念誌』琉球プロジェクト。
- ・沖縄女性史を考える会編(2013)『沖縄と「満洲」—満洲一般開拓団の記録』明石書店。
- ・中村春菜(2019)「15 疎開と引き揚げ」『沖縄戦を知る事典 非体験世代が語り継ぐ』吉川弘文館。
- ・赤嶺守(編)(2018)『<沖縄籍民>の台湾引き揚げ証言・資料集』琉球大学法文学部。
- ・原佑介(2019)『禁じられた郷愁—小林勝の戦後文学と朝鮮』新幹社。
- ・謝花直美(2019)「沖縄占領下の「金武湾」からみる移動、引き揚げ、再移動」『JOHA 研究』15 号。

【会場案内図】

人文社会学部と国際創造学部の入っている建物 1 階

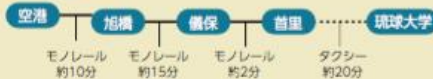


中城口(東口)から：ループ道路を左折
西原口(南口)から：ループ道路を右折

琉球大学へのアクセス

那覇バスターミナルから琉球大学

モノレール&タクシー



空港から琉球大学

高速バス

111 117 番線

●琉球バス・沖縄バス・那覇バス・東陽バスの4社が交互運行
※各20~40分に1本程度/所要時間:40~50分

113 123 152 番線

●琉球バス 経路 空港→沖縄自動車道→琉大入口下車
(琉大入口にて下車、琉大北口まで徒歩約4分)

※1時間に1本程度/所要時間:45分

首里駅琉大快速線

94 番線→琉大南口/北口方面

●那覇バス モノレール首里駅から琉大北口まで(平日のみ運行)
経路 首里駅前→汀良三丁目→城東小学校前→石碓二丁目→
棚原→キリスト教短大入口→琉大附属病院前→
琉大附属小学校→琉大法文学部前(琉大北口行きのみ)→
琉大北口(終点)

那覇バスターミナルから琉球大学

路線バス

97 番線「琉大東口/北口方面」

●那覇バス 経路 バスターミナル→国際通り(改志)→儀保(首里)→
琉大附属病院→琉大東口→琉大北口(終点)

98 番線「琉大北口方面」

●琉球バス 経路 バスターミナル→国際通り(改志)→バイパス→
真栄原→沖国大前→琉大北口(終点)

※各20~40分に1本程度/所要時間:40~50分